

第20回元町HDクリニック談話会

内シヤントの止血について

元 町 H D ク リ ニ ッ ク

看護部 田中 佳代子

2014.10.26 兵庫県私学会館

始めに

□ 血液透析を行うためには、血管から血液を取りだして浄化し、再び血管に戻さなければなりません。

その仕組みが、バスキュラーアクセスで、維持透析療法にとって必要不可欠なものです。

バスキュラーアクセスの種類

- 自己血管内シャント
- 人工血管内シャント
- 動脈表在化
- 長期留置カテーテル

止血の種類



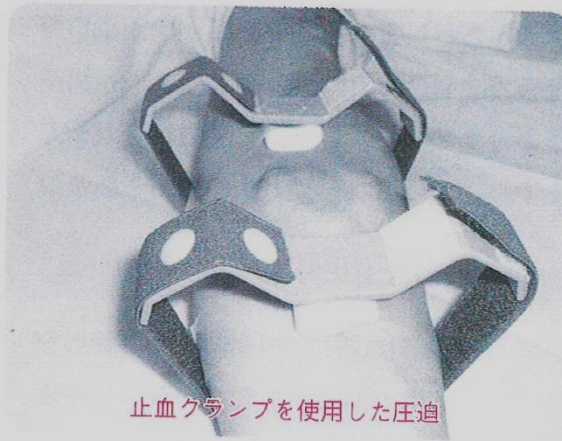
患者による自己止血



介助者による用手止血



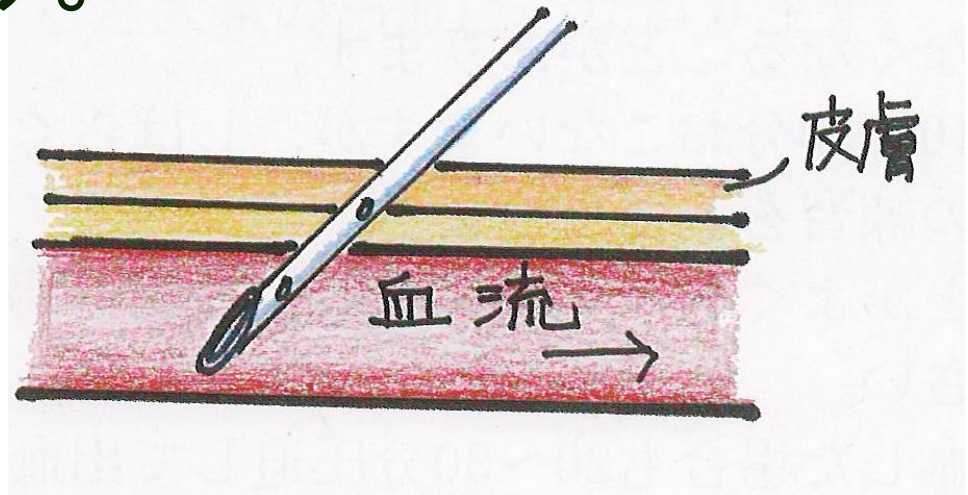
止血ベルトを使用した圧迫



止血クランプを使用した圧迫

止血時の圧迫部位

- 針の刺入部は、皮膚の穿刺孔と血管の穿刺孔の2ヶ所があり、数mm程度ずれています。
- そのため、止血には同時に穿刺孔を圧迫する必要があります。

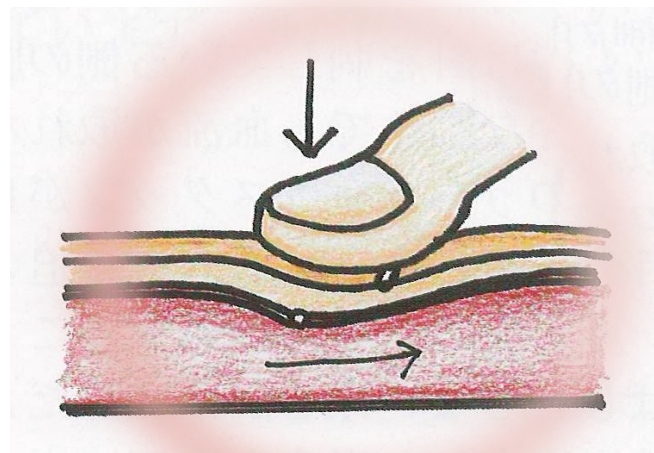
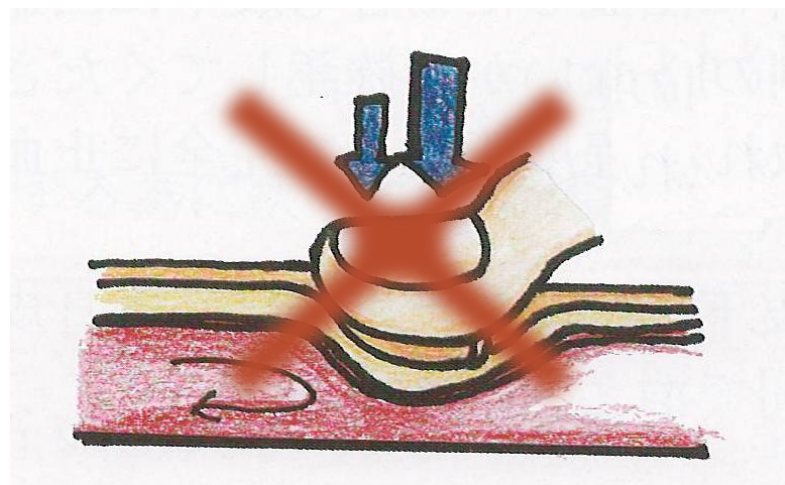


止血のタイミング

- ❑ 針を抜く前から強く圧迫すると、針を抜く際に血管の内壁を傷つけるおそれがあります。
- ❑ 逆に圧迫のタイミングが遅すぎると、出血のおそれがあります。
- ❑ 針の先端が皮膚の穿刺孔から完全に抜けた瞬間にガーゼで圧迫して下さい。

止血圧

強すぎる圧迫は血流を遮断し、シャント閉塞の原因になるため、ドクドクと拍動を感じる強さで圧迫して下さい。

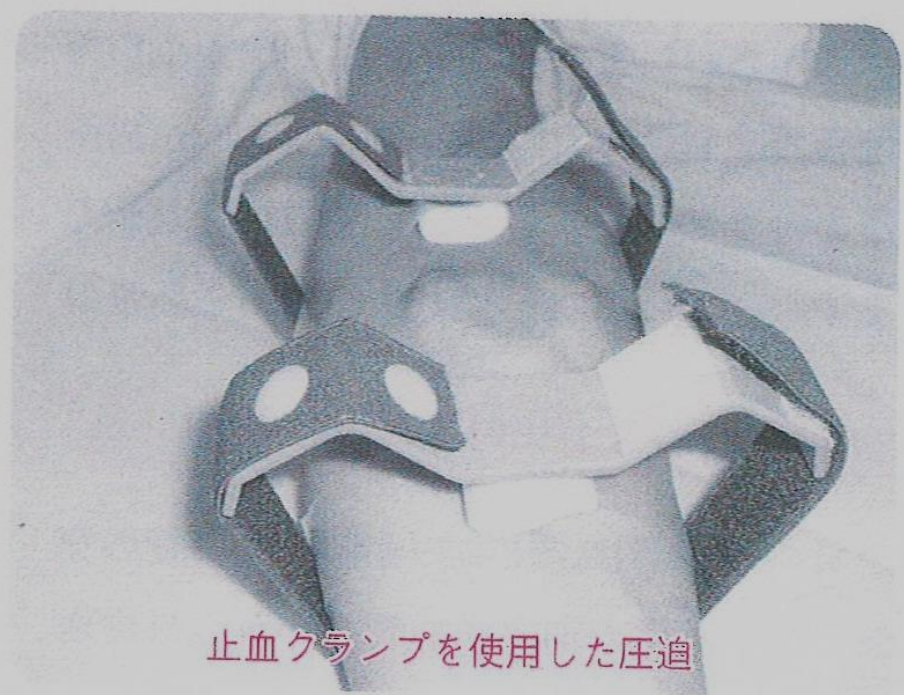


止血時間

- 10分～15分程度ですが、個人差が見られます。
- 止血時間の延長には、透析歴による血管の変化等、さまざまな要因があり、要因に合わせた対処が必要となります。

止血用具

- 用手止血が困難な場合、止血ベルトや止血クランプなどを使用する場合があります。



止血パッド

□ 止血の確認



□ 止血パッドを貼る



□ シャントの拍動を確認



□ 翌日には外す

止血を確認する際は、ガーゼを急にとると、血液が噴き出しますのでガーゼはゆっくりはずして下さい。

終わりに

当クリニックは、開院40年となり超長期透析患者さんを始め幅広い透析歴の患者さんが通院されています。それに伴いさまざまな血管、皮膚状態がありマニュアル通りに行えない場合もありますが、これからも温かい看護をしていきたいと思えます。

よろしくお願いいたします。